

「砂のささやき」

～古代の砂漠における人間の位置づけについての考え～

いつも、砂はひそひそと語りかけています。
ヘビ、サソリ、ネズミはしばしばそれに気づきます。

しかし、ほとんどの人間は
傲慢すぎて耳を貸そうともしません。

重機が最終的に風景の姿を
支配するでしょうか。

人類の多くは混沌とした現実と絶えず
闘っているのではないのでしょうか。

砂の小さな粒子は無限に耐久性があるようです。
それらは、何億年も宇宙で休むことができますし、
まばたきの間に涙から落ちることもできます。

小さな砂粒は取るに足りないように見えるかもしれませんが、
皮肉なことに、最も小さなものが最も強力であることがよくあります。

- T Newfields (和訳.: j.sky)

2001年 名古屋市 2024年 静岡市

